

大隅諸島の自然科学系を中心とした研究動向

河合 溪

Trend of Scientific Research in the Osumi Islands

KAWAI Kei

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

要旨

大隅諸島（屋久島、種子島、硫黄島、竹島、黒島、馬毛島、口永良部島）における自然科学系の研究の動向について、大学の文献データベースを利用して調査した。全分野を含めて、最も調査が行われている島が屋久島で、その次が竹島であった。この地域では 2 番目に大きな島である種子島は 3 番目に多くの研究がなされていた。

南西諸島を構成する奄美・琉球地域は高い生物多様性と多様な文化を維持しており、世界的注目を集めている地域である。また、大隅諸島は世界遺産である屋久島を中心に、観光と生物多様性に注目される地域で、自然環境的に注目されている地域である。

この地域では多くの調査・研究が行われてきたが、時代と共にその目的や対象が変わってきている。すでに今までの研究成果を含む多くの文献データベースが作られてきていることもあり、データベースでキーワード検索を行うと、どの時代にどのような研究が行われてきているかを調べるのが簡単になっている。しかし、この検索結果だけからはどのような要因がその研究に影響を与え、時代と共にどのような変化があり、それぞれの研究がどのような相互関係にあったかを明確に示すことができない。本研究では、主要な大学の文献データベースを利用することで、どのような要因が時代の変化と共に影響しあい研究が進んでいるかを明確にすることを目的にして行った。

具体的には以下のような手順で検討している。各データベースを対象に「島」という単語をキーワードとして入れ、関連する論文タイトルを抽出した。抽出された全タイトルからテキストマイニング法を用い、最も使われている単語 1,000 を選び、その抽出された単語から自然科学系で重要と考えられる単語を抽出した。大隅諸島

(屋久島、種子島、硫黄島、竹島、黒島、馬毛島、口永良部島)の島名とキーワードの検索から各島における研究履歴を抽出した。

全分野を対象にしたデータベースの検索結果では屋久島の論文数が一番多いことが示された。これは屋久島が自然遺産であるとともに、大学の拠点があるということが大きな要因になっていると考えられる。興味深いのは面積として大きい種子島(図1)よりも、竹島において多くの研究がなされている点であり、この理由の解明が今後のテーマの一つと考えられる。

今後、データマイニングにより、自然科学分野を中心とした、より一層の検討を行う予定である。



図1 種子島の砂浜